



いじめとは何か? ~ 今、大人たちにできること ~

講師：国立大学法人鳴門教育大学特任教授 森田 洋司氏

平成 25 年に改正されたいじめ防止対策推進法と文科省のいじめ防止対策の基本方針によって、いじめ問題への対応策が大きく変化しました。いじめ問題に詳しい森田洋司鳴門教育大学特任教授は、保護者と地域、学校の緊密な連携と、いじめを受けている子どもたちの心に寄り添う視点が重要だと指摘します。

●「つらい」思いは見ようとしなければ見えない

いじめは非常に見えにくいと言われます。事実認定が非常に難しく、いじめられた子どもから「私はいじめられている」と知らせてくれることも少ない。親御さんにもなかなか分からない。周りに見えにくいのです。最近ではネット上のいじめもあり、非常に難しい問題です。いじめがあるかないかは、行動や言葉など表に現れた現象だけでは判断できません。人から嫌がらせをされている「つらい」という思い。ここに事実を置くのがいじめの捉え方の基本です。本人が言わなければ、周りがそのつらさや痛みに気づいてあげる必要がある。周りが気づけず本人の苦しさ、つらさと周囲とのズレが生じてしまったとき、そこに悲劇が起こります。

しかし、先生1人の頑張りでやはり限界があります。学校だけでなく、地域の方々と一緒に、保護者やPTAの皆さんとともにいじめ問題に対処していかなければなりません。そのためには問題を見ようとする意識が重要です。いじめは心の中にありますから、見よ

うとしなければ見えない。学校の先生方だけでなく、保護者の方々、あるいは地域の方がいじめ問題に関心を持ち続けていただくことが非常に大事なのです。

●いじめが子どもたちの社会的な力をそいでしまう

国立教育政策研究所の追跡調査で、ほとんどの子どもたちがいじめという現象に何らかの関わりを持っていることが分かりました。いじめを受けないために相手には逆らわず、自分の言いたいことも言わず、みんながやるようなことをやり、自分の個性を押し殺して、なんともないような顔をしている。そんな子どもばかりで、将来の日本社会はどうなるでしょう。子どもたちも息苦しいはず。子どもには、どんどん個性を輝かせ、それぞれのオリジナリティーを発揮して社会を支えてもらわなければいけない時代なのに、いじめが子どもたちの力をそいでしまう。これでは日本の社会が持たない、子どもも決して幸せじゃない。

子どもだけでなく、人間社会には、どんなところにも力関係のアンバランスがあります。それを乱用、悪用するといじめが起こると世界中の学者が指摘しています。これがいじめの本質です。力関係といっても、権力だとか、体力だとか、暴力的なものだけではない。「影響力」が重要なのです。「影響力」は、人が関係を結び集団や組織を作り、社会生活を営むにあたって不可欠で、普遍的な要素です。この「影響力」をお互いに活用し合いながら、支えたり支えられたり、助けたり

助けられたりする。これが人間社会なのです。そこにはいろんな形の「影響力」があり、それを悪用、乱用すれば、必ずいじめが起きるのです。だから、「いじめはどこにでも、誰にでも起こりうる」と言われるのです。



●これはおかしいなと感じたら、まず学校に報告

いじめにあっている子どもは、言葉で伝えられなくても毎日の生活の中で普段と違った様子や行動をしているかもしれません。これをよく理解していただき、何かあったら必ず学校に相談してみてください。そして、地域や家庭でこれはおかしいなと感じたら、いちいち事実を確認する必要はありません。学校に報告して、調べてもらうことが大事です。学校でも、今まではいじめの事実が分かってから対応していましたが、推進法と文科省の基本方針ができて、子どもが苦しんでいた、つらい目にあっていたら、まず対応して、それに基づいていじめかどうかを判断することになりました。地域も学校も、まずいじめによる子どものしんどさ、親のしんどさに寄り添い、その後で事実確認をして、いじめ問題に対応していくよう、ぜひともよろしく願います。

平成 27 年 7 月 10 日
京都市地域生活指導連合会前期総会での講演から要約

親子で語ろう あれこれ! 我が学校! 番組小学校

地域住民の力で日本初の学区制小学校

京都に初めて小学校がつけられたのは明治 2 (1869) 年。「番組小学校」と呼ばれ、全国に小学校が多くつくられ始めるより 3 年も前のことです。「番組」とは、当時の住民自治組織の単位のことです。ほぼ各番組に1校ずつ、64 もの小学校が開校したのです。

番組小学校の特徴は、地域住民によって運営されたこと。番組内(後の学区)のすべての家が持家・借家の区別なく、運営費として一定の額を出資、いわゆる**資金**と呼ばれました。明治維新後の京都の復興のためには「人づくりが第一」、という当時の地域住民の熱い思いが感じられますね。

地域の中心として人が集う小学校

番組小学校は教育の場にとどまらず、地域のコミュニティ・センターとしての機能も備えていたほか、徴税、戸籍、消防、警察などの施設も併設されていき、地域の中心として人々が集いにぎわう場所でもありました。

特に消防については、防火塔と呼ばれる火の見櫓が設置されていきます。半鐘を鳴らして火事を知らせたほか、太鼓を叩いて人々に時刻を知らせる役割も担っていました。当時、校舎の上に防火塔を備えた小学校は、学区で最も高い建物だったそうです。しかし、近代化が進んで消防設備が整備されたこと、時計が普及したことにより明治末期までに姿を消しました。唯一現存する元有濟小学校の望火楼は、国の登録有形文化財に指定されています。

このように、番組小学校がまちづくりの中心となって京都の復興を支えていたんですね。



▲有濟小学校の防火塔(大正期)



▲元有濟学校に現存する防火塔(写真：京都市学術史博物館提供)

目標達成! 学校建設につなげます

「象への恩返しプロジェクト」募金活動

— 京都・ラオスの友好 —



10月17日(土)に、京都市動物園で人づくり21世紀委員会による「象への恩返しプロジェクト」募金活動を実施しました。園内では募金活動と共にスタンプラリーや工作ブースを実施し、多くの子どもたちで盛り上がった楽しい募金活動となりました!

また、11月8日(日)には京都市動物園のグランドオープン記念式典が行われ、目標金額の700万円を大きく上回る790万円の募金を門川市長にお渡しすることができました。子どもたちの学びと育ちを支える子育て7団体が中心となり、保育園、幼稚園、学校、児童館のご協力、そして区民まつりなどのイベントにおいて、子どもたちや保護者、そして市民の方々から多くの募金をいただきました。ありがとうございました!



- 呼びかけ団体
 - ・京都おやじの会連合会
 - ・京都市日本保育協会
 - ・京都市PTA連絡協議会
- ・(公社)京都市児童館学童連盟
 - ・(公社)京都市私立幼稚園協会
 - ・(公社)京都市保育園連盟
 - ・人づくり21世紀委員会

今後は、皆さんの思いがしっかりとラオスに届くよう、大野在京都市ラオス人民民主共和国名誉領事にもご協力いただきながら、京都とラオスの子どもたちの友好と健やかな成長につながるよう、学校建設を進めていきます!

人づくり21世紀委員会とは



平成 10 年 2 月に発足し、子どもたちの教育や健全育成に関わる 114 の団体と 13 の行政区・地域の実行委員会が、子どもたちを取り巻く様々な課題を私たち大人が担う「社会全体の問題」として捉え、多様な活動を展開しています。

人づくり21

検索

携帯端末の場合はQRコードをご利用ください。



事務局：京都市教育委員会 生涯学習部 家庭地域教育支援担当
〒604-8064 京都市中京区善小路通六角下る舟屋之町5-49(元生洋小学校内)
TEL：075-251-0456 FAX：075-251-0449 E-mail：info@hto21-kyoto.jp